

安心安全な暮らしを支えるために



上田俊孝 議員

安心安全なまちづくりの対策について

議員 防火施設・設備の設置状況はどの程度で、今後どのように推進していく考えてあるか。

総務課長 防火施設・設備の設置状況でございます。町内には防火水槽70基、消火栓170基、井戸55基を消火水利として整備をいたしております。また、今後どのように推進していくかという考えでは、まず、消防に必要な水利施設につきましては、当該市町村がこれを設置し、維持し及び管理するというのが消防法で定められております。また、その施設の設置基準も消防庁が定めているところがございます。

支えるために

本来は、その設置基準に照らしまして町が設置していくところですが、町ではおおよその施設整備はできていると考えているところです。

消防施設整備補助金交付要綱を制定し、地区への100%補助で整備しております。

地区が実施主体として設置することで基準よりも緩和した水利施設が設置できていると考えています。今後も地区からの要望によりまして、補助事業として整備していきます。

議員 防災備蓄倉庫の整備・充実度は現在の程度なのか。

総務課長 防災備蓄倉庫の整備は、国土交通省が道の駅の防災機能強化事

業として設置いたしました1カ所を含めまして、合わせまして合計3カ所設置をいたしております。

また、充実度はということですが、現在の備蓄品は、保存水が約3,700本、保存食・軽食が約3,100食、そのほか介護、衛生、救急用品などを備蓄しておりますが、その量につきましてはまだまだ不十分な状況でございます。

そのために今年度から5カ年計画で保存食を2万7,000食を目安に揃えていく計画です。その保存食のほか、毛布、就寝用マットあるいは簡易トイレ、ライトなど避難用品も揃えていく計画でございます。

議員 防災備蓄に関して

は今後各種団体においてのアンケートなどを取り立てはどうか。

総務課長 関係の町内の機関、団体等の皆様の意見を頂戴しながら防災備蓄品の品目、数量につきましても再検討していきたいと考えています。

議員 今後、町内に防犯灯あるいは防犯カメラの設置等の計画はあるのか。

総務課長 現在、防犯灯は、地区活性化総合交付金事業の中で地区が事業主体となり、設置に要する費用の2分の1を町が地区に交付することで進めております。平成26年度末で地区が管理します防犯灯が861基、町が直接管理いたします防犯灯が街路灯も含めまして87基あります。防犯カメラの設置はありません。

防犯灯はこれまでであり、地区活性化総合交付金事業での地区の設置と町が直接設置する方法を進めてまいります。

防犯カメラにつきましても、現在、設置計画はありませんが、熊本県は地域の防犯ボランティア団体がを行います見守り活

動を補完する目的で、防犯ボランティア団体等が設置します防犯カメラの設置費用に助成を行う市町村に対しまして補助を行います「防犯カメラ設置支援補助金事業」を実施しています。事業実施主体が防犯ボランティア団体、自治会、学校PTA等となりますけれども、この制度を研究したいと考えております。

議員 この数年、我が町にも色々な事件・事故等があつております。また、高齢化社会においても防犯カメラの設置は大きなことだと思つています。

ですから、この町でも防犯カメラの設置が必要だと思ひます。町長の考え方をお聞きしたい。

町長 防犯カメラにつきましてもその必要性、重要性というのは認識をいたしております。いろいろな事件・事故がありましてときに、この防犯カメラの果たす役割というのは大変大きいものがあると思つております。

その上でやはり個人のプライバシーの関係あたりの部分もござります。

先ほど課長が少し申し上げましたけども、それぞれの地区の取り組みとしてここには、是非、必要だという分につきましては県の方も補助をするということですし、それに呼応して私も町単独の補助を上乗せ補助というのも考えていいという思いはございます。

どこにどんな形で設置をするのかというのは大きな課題があると思つておりますので、そのあたりは、やはり住民の皆様方とともに考えていかなければならないと思つております。

私は安全安心に上限はないと思つておりまして、これだけだから大丈夫だということはないと思つておりますので、できる限りの整備は進めていきたいと思つております。